

第10回ヘレニズム～イスラーム考古学研究会について

佐々木達夫・岡田保良

10th Annual Meeting of the Japan Society
for Hellenistic-Islam Archaeological Studies

Tatsuo SASAKI and Yasuyoshi OKADA

ヘレニズム～イスラーム考古学研究会は、2003年7月に第10回の研究会を開催した。ヘレニズム時代、より厳密にはペルシア台頭以降の西アジア、中央アジア地域を中心に、遺跡や建築、出土品や工芸品、文字資料を用いて、考古学、美術史、工芸史、建築史、あるいは文献史などの分野の、総合的な研究交流を行う勉強会として利用されている。アジアの西半分を占める広大な地域の人々は、他地域とつねに交流を続けているので、大きな視野から個別の問題を掘り下げ、この地域の歴史や文化を眺めていくことが会の目的となる。

この分野の研究者は少しずつ増加しているが、まだ少数派であり、他分野の研究成果を聞き、学問的な刺激を受け、他分野の研究手法や問題を知り、自らの分野・テーマの研究手法を開発し研究を進める手助けになれば幸いとおもう。各分野の成果を融合的に利用して総合的な研究が生まれ、個別分野を超えた新たな成果を共有することも期待できる。また、研究交流だけではなく、他の研究分野の方々と親睦を深める場としても利用されている。外国からも発表者をお迎えし、研究交流の輪を広げている。会の運営は佐々木と岡田が行い、年1回の会を金沢大学で開催してきた。会費も会則もなく、参加した人が会員であるという、研究交流だけの会である。

第1回の研究会は1994年7月初旬に開催され、その後、毎年7月第1週土日の2日間開催が定例化してきた。この時期はもともと学会シーズンではなく夏休みや前期試験の前という、授業と定例会議を除けば比較的暇なときであるが、梅雨の蒸し暑い季節で観光伝統都市金沢のもっとも過ごしにくい季節である。金沢のイメージを悪くする時期だが、頭の中に生えたカビを払いさり、異分野研究者との交流で研究の活性化を行うため、主要専門的学会の隙間を縫うこの時期に開催している。

私たちの研究テーマはまだ総合性が少ないという感じをもっているが、異なる分野の発表にたいして関心が薄いようにも感じられ、専門性の高い研究者は自分と同じ分野でも時代や地域が少し違うと関心を示さない傾向さえあるのではと思う。さまざまな研究分野を背景にして、自分の研究分野を深めるにはどうしたらいいか。新たな学問体系を求めた発表や研究そのものをどう位置づけるかを問う発

表、研究方法の点検開発、さらに当然であるがより緻密になってきた専門的研究の成果を問う発表もある。それを聞いていると学ぶことが多く、頭のなかで別の私が勝手におしゃべりを始める始末である。この勉強会を続ける意義はまだあり、次回2004年7月3日・4日開催予定の第11回発表申し込みを募集している。

なお、この会は小さな勉強会であり、大きな学会のように総会的事務や政治的活動もなく、広い講堂で一方的に話を聞くだけ、あるいは多くの発表を同時に別部屋で行う大学会でもない。小さな部屋で全員が対面式に肉声でいつでも自由に発言できる、参加者の実質的な勉強会の場、いわゆるWork shopである。一般の方や学生教育のレベルに合わせる必要はなく、研究者同士の意見と討論を重視し、研究成果ばかりでなく研究過程を大事にしながら、専門外のことに意見を言うのを良しとする、学問的刺激を得る場である。

第10回研究会が開催された同じ2003年7月に大英博物館を会場として2つの研究会があった。佐々木が参加したが、その内容は日本の研究会と異なる部分があった。次の2点が気になる部分であった。1) 日本では外国のことを研究しているが、外国では内部から自らを研究している人々がいるということ。2) 研究分野の幅の広さは研究者層の厚さを反映していること。

第1の点は、ヨーロッパ人研究者の他に西アジア出身の研究者が増加し、彼らの研究が地元で根ざした研究であることに因るものである。その家の内部に住んでいた人しか分からないような部分まで論じられている。日本での研究は、彼らには分からない外から見た視点から、彼らの知らない地域と時代から比較した、異なるアプローチから論議することに意義を見いだせる。第2の点、分野の幅の広さに関しては、参加者が急に減ったり増えたりすることから、個人レベルでは日本よりも細分化された研究に陥っていると言える。

ヨーロッパでは小さな実質的な研究会が各地でたびたび開催されており、大きな学会のような研究会に参加しなくても、絞られた情報を同じ分野の研究者が共有できる利点がある。ヘレニズム～イスラーム考古学研究会は勉強会に徹した小さな研究会であるが、10年という節目に振り返



図1 研究会会場

って見ると、いろいろな勉強をしてきたという感慨も覚える。

2003年7月5日、6日に開催された第10回の研究発表は以下のものであった。

司会 春田晴郎

高浜 秀 (金沢大学) 「カシュガル出土の人物パルメット文三耳壺に関連して」

Takahama Shu, On the clay vessel with three handles and applied ornaments found in Kashgar.

足立拓朗 (中近東文化センター) 「パルティアの精製土器にみるヘレニズム時代の地域性」

Adachi Takuro, Considering the Regionality on Parthian Fine Ceramics.

芳賀 満 (京都造形芸術大学) 「アレクサンドロス大王のイメージ」

Haga Mitsuru, Images of Alexander the Great.

司会 高浜 秀

春田晴郎 (東海大学) 「タンゲ・ボタンのエリュマイス浮彫」

Haruta Seiro, Elymaean Rock Relieves at Tange Botan, Khuzestan.

中井義明 (同志社大学) 「ペルシアの小アジア征服とギリシア人」

Nakai Yoshiaki, Persian conquest of Asia Minor and the Greeks.

辻 成史 (大手前大学) 「古代物語芸術におけるVisible/Invisible」

Tsuji Shigehumi, 'Visible/Invisible' in Ancient Narrative Art.



図2 サバ・A・ジャシム氏

司会 佐々木花江

Dr. Sabah A. Jasim, Archaeology of The UAE (Director, Sharjah Archaeological Museum, UAE)

司会 辻 成史

石渡美江 (東京大学) 「李静訓墓出土首飾り」

Ishiwata Mie, The necklace excavated from the tomb of lijingxun, Sui Dynasty.

宮下佐江子 (古代オリエント博物館) 「中国出土の棺床に見られる音楽表現について」

Miyashita Saeko, Musical scenes of the marble tomb-chambers from China.

芳賀京子 (日本学術振興会特別研究員) 「シリア・ダフネの黄金のアポロン像」

Haga Kyoko, The Cult Statue of Apollon at Daphne (Syria).

司会 深見奈緒子

薙 勇造 (東京大学) 「ヒムヤル王国トゥッバ朝：後世から見た3～6世紀の南アラビア・エチオピア関係」

Shitomi Yuzo, One Hypothesis on the Identity of Tababi 'a: A Later Interpretation of the Himyarito-Aksumite Relation.

岡田保良 (国士舘大学) 「テル・グッバ復元研究を整理する」

Okada Yasuyoshi, Review of Some Studies on Tell Gubba Reconstruction.

司会 千代延恵正

深見奈緒子 (東京大学) 「カッチ地方の建築遺産」

Fukami Naoko, Architectural Heritage of Kutch, India.

山下王世 (国際交流基金中東交流事業業務室) 「イエニ・モスクの建設について」

Yamashita Kimiyo, The construction of the Yeni mosque in Eminonu.

司会 岡田保良

新井勇治 (イラク古代文化研究所共同研究員) 「1930年代の地籍図 Plan cadastral におけるダマスクスとその変容に

ついて」

Arai Yuji, A Study on 1930's Plan Cadastral in Damascus.

岩井俊平 (京都大学博士課程) 「初期中世の考古学的認識」
Iwai Shunpei, The Archaeological Recognition of the "Early Middle Age".

佐々木花江・佐々木達夫 (金沢大学) 「物を使用した場所の検討－コルカルバ町跡の景観復元－」

Sasaki Hanae and Sasaki Tatsuo, The Archaeological Recognition of the Islamic village in UAE.

佐々木達夫

金沢大学文学部

Tatsuo SASAKI

Kanazawa University

岡田保良

国土舘大学イラク古代文化研究所

Yasuyoshi OKADA

Institute for Cultural Studies

of Ancient Iraq,

Kokushikan University